

加湿器の累計生産台数350万台を達成しました

ダイニチ工業株式会社（本社：新潟県新潟市、代表取締役社長：吉井久夫）は2月14日（月）に、**加湿器の累計生産台数 350 万台を達成しました**※1。

※1：2022年2月14日現在。2003年からの加湿器の生産台数。自社調べ。



初代
加湿器
HD-5001
(2003年)



カンタン
取替えトレイ
カバー
初搭載
HD-LX1219
(2019年)



カンタン取替え
トレイカバー



最新
モデル
HD-RXT521
(2021年)



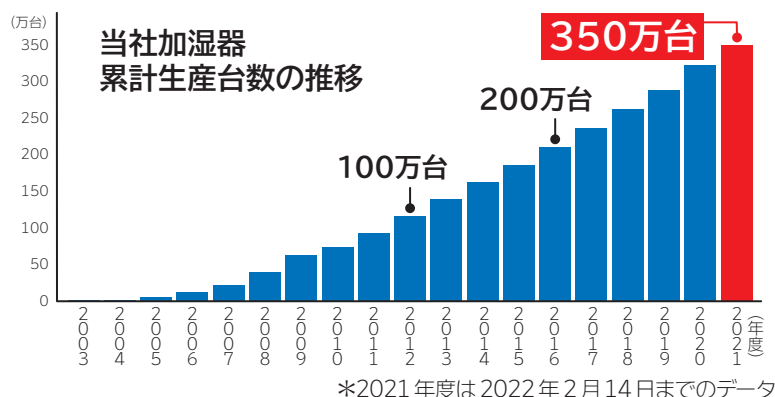
当社は石油燃焼機器の専門メーカーとして培ってきた技術を生かし、2003 年より加湿器の製造販売を開始しました。

当社では製品の設計から組立、検査にいたるまで新潟で一貫して行なっており、運転音の静かさは業界 No.1※2 を実現しています。また搭載機能やデザインごとにシリーズを設け、ご使用環境や好みに合わせてお選びいただけるよう製品ラインナップを拡充してまいりました。

2019 年にはトレイの水洗いが不要になる業界初※3 の「カンタン取替えトレイカバー」を搭載した LX シリーズを発売しました。この機能は加湿器のお手入れの手間を軽減できると好評で、現在は HD シリーズパワフルモデルと RXT シリーズにも搭載しております。

当社の加湿器は今年で発売20年目を迎えました。長い間、多くのお客様にご愛顧いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

当社はこれからも、より安全で快適にお使いいただける製品を企画・開発し、多くのご家庭にうるおいをお届けしてまいります。



加湿器生産を行う中口工場（新潟市西蒲区）

※2:同クラス気化式・ハイブリッド式(温風気化/気化)における連続運転可能でありかつ最大加湿能力を発揮するモード(当社ではハイブリッド式加湿器[標準]モードを指す)運転時の最小運転音[対象:RXT・RX・HD シリーズは13dB、HD シリーズパワフルモデル(HD-244を除く)は15dB]。2021年7月1日現在。自社調べ。 ※3:加湿器(単体)において。2021年4月1日現在。

添付資料1

当社加湿器 3つの特長

静音

寝室などでも使われるため、運転音の大きさは重要。静かな運転音が一番のポイントです。

発売時と現在の運転音比較

2003年
HD-5001 (初代)

最小運転音
21dB

最大運転音
36dB



2021年
HD-5021 (最新)

最小運転音
13dB

8dB
低減

最大運転音
30dB

6dB
低減

日本製

ダイニチは製品の設計から組立、検査にいたるまで、すべて新潟の工場国内生産をしています。

3年保証

品質に自信がある日本製だからこそ実現できる保証。アフターサービスも充実しています。

「静音」ではなかった初代加湿器

2003 年頃の加湿器市場では「静音」を重視しているメーカーはありませんでした。そこで当社は「**静かにしっかりうるおう**」ことを目指し、**初代加湿器 HD-5001 を開発しました。**

しかしながら販売数は当初計画を大きく下回り、参入 1 年目にして社内では撤退やむなしの声が上がるほどでした。また購入者アンケートでは、静音を売りにした加湿器であったにもかかわらず、「**静かではない**」「**音が気になる**」とのご意見を多くいただきました。寝室で加湿器を使う方が多く、就寝時にはうるさいと感じられていることがわかったのです。

そこで加湿器の構造を根本から見直すことにしました。加湿器の運転時に音が発生する原因は、部品の振動やモーターの回転、風が部品にぶつかるなどさまざまなものがあります。部品の取り付け方や形状などを細部まで調整し、**翌年には最小運転音を 6dB 低減することに成功しました。**

ダイニチ加湿器 人気の理由

アンケート等で寄せられたご要望を地道に製品改良に反映し、**使い心地のよさを追求しています。**

ご意見

就寝時は音が気になる。表示部がまぶしい。

対策

就寝時用のモードを開発。表示部を 70%減光してまぶしさを抑え、運転開始後 1 時間は最小運転音で眠りを妨げない運転をします。

ご意見

お手入れが面倒。

対策

トレイの水洗いをしなくてよい「カンタン取替えトレイカバー」を開発。



ご意見

加湿器を別の部屋に運んで使いたい。

対策

持ち運びがしやすい「カンタン持ち運びハンドル」を開発。片手で加湿器を持ち上げられるので、移動だけでなく掃除の際も便利です。

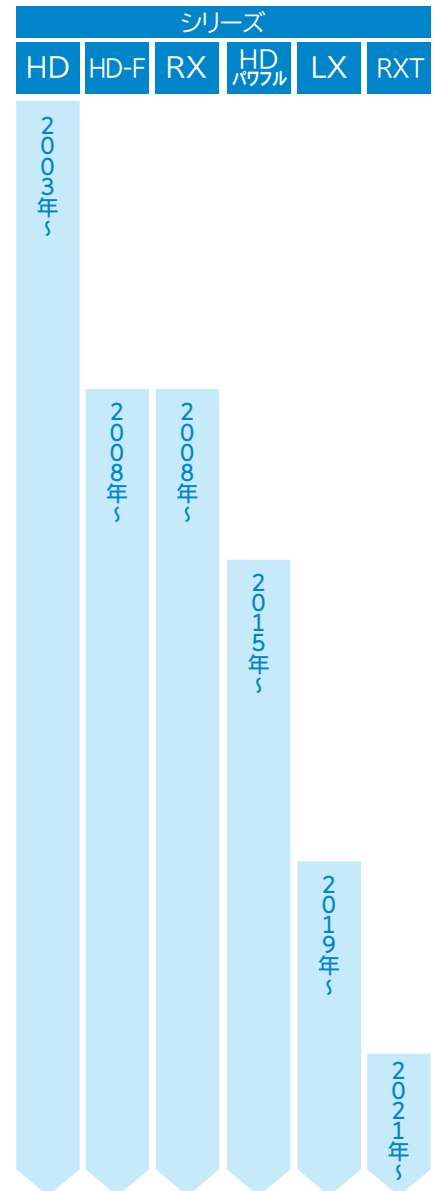


このほかにも加湿器をより便利に使える機能を搭載し、長年多くの方にご愛用いただいています。

添付資料2

当社加湿器のあゆみ

2003年	500mL/hクラスハイブリッド式加湿器 (現在のHDシリーズ)の誕生。		HD-5001
2005年	個室や寝室向けの300mL/hクラス小型ハイブリッド式加湿器誕生。		
2006年	500mL/hクラスハイブリッド式加湿器HD-5004が、価格.comプロダクトアワード生活家電カテゴリ加湿器部門で金賞受賞。		
2007年	オフィスやリビング向けの900mL/hクラスハイブリッド式加湿器誕生。		
2008年	インテリア性を重視したハイブリッド式加湿器RXシリーズの誕生。 シンプル機能の加湿器(現在のHD-300F、HD-500F、HD-700F、HD-900F)の誕生。		RXシリーズ
2012年	累計生産台数100万台達成。		
2015年	加湿器の生産ラインを中之口工場(新潟市西蒲区)に移転。 1,500mL/h、1,800mL/hクラスの大型ハイブリッド式加湿器(HDシリーズパワフルモデル)誕生。		HDシリーズ パワフルモデル
2016年10月	累計生産台数200万台達成。		
2017年	業界No.1*の加湿量2,400mL/hクラスのハイブリッド式加湿器の誕生。 ※家庭用加湿器において1時間あたりの最大加湿量2,400mL/h(室温20℃、湿度30%の場合)。2021年7月1日現在。自社調べ。		
2018年10月	累計生産台数250万台達成。		
2019年	デザイン性と使いやすさを追求したハイブリッド式加湿器LXシリーズの誕生。 「カンタン取替えトレイカバー」搭載でお手入れの手間を軽減。		LXシリーズ
2020年10月	累計生産台数300万台達成。		
2021年 8月	「カンタン取替えトレイカバー」を搭載したミディアムモデルRXTシリーズの誕生。		RXTシリーズ



ダイニチ工業について

1964年創立の石油ファンヒーター最大手のメーカー。業界に先駆けて石油気化燃焼技術の開発に取り組み、1971年にはガスのように青い炎で燃える気化式暖房機「ブルーヒーター」を発売いたしました。また石油燃焼機器の専門メーカーとして培ってきた技術を生かし、2003年より加湿器の販売を開始しました。

ダイニチは製品の設計から組立、検査にいたるまで、徹底した品質管理のもと、新潟の工場で行なっています。より質の高い安定した製品をお届けするために、ダイニチのものづくりはこれからも日本製です。

